

(滿鐵鐵道の成績)

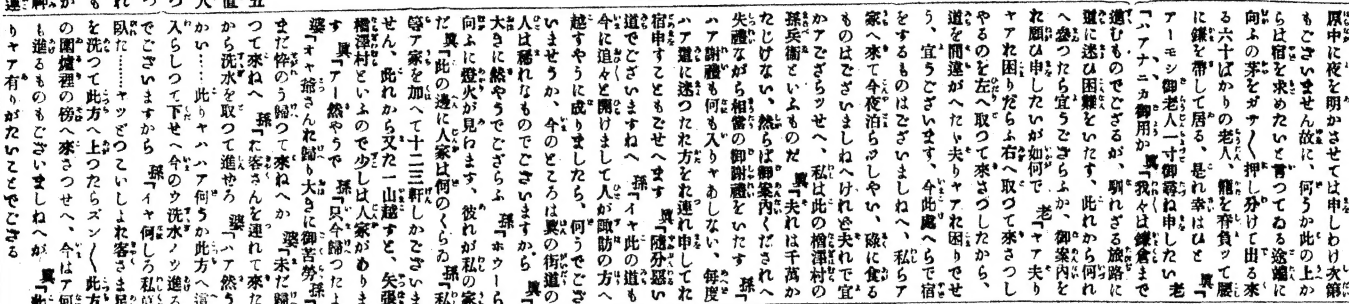
# 日露<sup>貨物</sup>連絡問題

（兩國主權の衝突）

100

第六十七席 邑井

10



---

明治四十三年 紀元二千五百七十年  
本紙 一校金二錢 一ヶ月金廿五  
號 三ヶ月金壹圓 一ヶ月金卅  
定價 金貳圓 郵費一ヶ月十三號  
及大祭日の翌日は休刊(月刊)  
廣告 五號活字十七字體 一行一圓金  
五十號 雜體特別廣告五號活  
字十七字體 一行金七十五錢  
發行所 京城新報社  
京城西門外小門處(電話六三三)  
編輯人 松久 久馬 太  
印刷人 高木 久馬 太

人とも打つ切つて懷中の金を攫奪りヤ  
ア只今惡者しいどころけ渡ぎはつく長  
へ浮世に短げへ生命 太く短かく世  
中を詰るの外いね、何うだ勘太兄  
片棒擔ひチャアくれぬへか 勘何うや  
ら 旨うな話した、ヨシ失なら己れ  
が片棒擔がよ、ダガ其んなら己  
ア己れた前チャア可けぬへ、幸はひ  
疏訪の五郎殿が居るから、五郎殿と高  
人、今とは違ひ其の頃とは違  
も充分に圓のつてはとりません萬木  
の原中、まてかよつて来ると、重に違ひ  
盟を問ひたくも人家はなし困り切つて  
る、モウ此れ日は西山に落ちるとい  
ふ、是もと暗き原中に彌う宿を求め  
る、此の出来はは致方なくか野宿  
をするの外はない、廣光祐實の兩人は  
「我れ」は兎も角貴君を邪やうな

廣告  
三輪洋行  
金高の多寡に拘はらず十二  
分の便宜利を與ひ迅速相  
應に應ず賣物に可事を取扱  
爲に應ず金に一定の取扱

三輪洋行  
懷中  
消化と  
館  
焦心聖志多年爲斯道於  
破敗應務然於以有  
醫藥而博取財洋藥  
京本三丁目  
相教 土御門派大陰師











